

武雄市文化のまちづくり構想 体系図

市民みんなで「文化の木」を育て新たなまちづくりに取り組みます。

基本理念

もっと
開かれた

もっと
関われる

もっと
つながれる

文化が生きるまち

柱1

成長する文化づくり

目標 ①

オープンな（開かれた）
文化づくり

施策

- ・文化がもっと身近になる
きっかけづくり
- ・気軽な文化活動の場づくり

目標 ②

フラットな（参加しやすい）
文化づくり

施策

- ・文化（活動）のバリアフリー化
- ・伝わる情報発信と共有

柱2

文化に関わる人づくり

目標 ③

主人公となる人づくり

施策

- ・主体的に文化に関われる
環境づくり
- ・地域や学校での文化教育の推進

目標 ④

サポーターとなる人づくり

施策

- ・文化を育てる人づくり
- ・文化を支える人づくり

柱3

文化によるまちの
にぎわいづくり

目標 ⑤

地域資源を活かしたまちづくり

施策

- ・地域固有の文化の継承と活用
- ・文化を軸とし活かした
にぎわいづくり

目標 ⑥

文化でまちと人をつなぐ
未来づくり

施策

- ・文化をきっかけにした交流の促進
- ・西九州における文化交流の拠点化

シン まちの進化論

「武雄市文化のまちづくり構想」



シン まちの進化論

「武雄市文化のまちづくり構想」とは
この構想は、これまでの武雄の文化に、様々な要素を取り込み、成長させていくことで新しい文化を生み出し、また、市民が気軽に文化に関わり、交流し、様々な分野との連携により活気とにぎわいが生まれることで、まち全体が進化していくことを目的としています。（構想期間は 2022 年度からの 10 年間）

※タイトル「まちの進化論」

進化論の「シン」には文化の木を育てるイメージとして7つの漢字「深、新、親、心、進、伸、森」に意味を持たせ、「深く根付く文化を守り、新しく生まれる文化もあり、誰もが親しめて、心のよりどころとなり、進化し続け、大きく伸びやかに成長し、森のように広く人々を受け入れる」メッセージを込めています。

目指すべき文化のまちの姿 基本理念

もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる
文化が生きるまち

取り組みの柱

① 成長する文化づくり（文化の木の根を育てる）

今ある文化に様々な要素を取り込んで成長していく文化をつくり、より市民が気軽に文化に触れ、楽しめる環境を築きます。

② 文化に関わる人づくり（文化の木の幹を育てる）

文化の継承・発展のため、市民、特に若い人たちがより主体的に文化に関われる仕組みをつくります。

③ 文化によるまちのにぎわいづくり（文化の木の枝葉を育てる）

文化を軸において様々な分野と連携することで、新たなまちの魅力づくりや、まちのにぎわいの創出につなげます。

文化の拠点から新たなまちづくりへ

この構想の策定により、文化をきっかけとした新たなまちづくりに取り組むためにも、基本理念を実現できる拠点となる施設が求められます。

その拠点として、市民に長く愛されてきた武雄市文化会館の機能や設備の問題点を改善し、活かしながら、整備計画を策定し、新たな文化の拠点として進化させていくことが必要です。

新たな文化の拠点から、その周辺や各町の文化・公共施設等とのつながりを高め、市民一体となって文化による新たなまちづくりを目指します。



市民みんなで「文化の木」を育て 新たなまちづくりに取り組めます

新たなまちづくりのシンボルとして、「多様性」「自由さ」「変化」を受け入れ、成長し続ける大きな「文化の木」を想定し、その木を市民自らの手で育てていきます。その中で、これまでの文化同士の、新たな要素との掛け合わせで、全く新しい実や花（新しい文化）が咲くような変化が生まれます。また、大きく育った木の下には、たくさんの人々が集まって関わり合い、市全域に活気と賑わいが生まれる、そんな文化が生きるまちを目指します。